



平和の鐘

編集・発行 カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
主任司祭 後藤正史神父 協力司祭 アルベルト神父
〒730-0016 広島市中区幟町4番42号
TEL (082)221-0621 FAX (082)221-8486
<http://www.nobori-cho-catholic.com>

2010年2月号 416

最近思うこと

シスター小野島照子

大聖堂の両祭壇に置かれたマリア像と十字架の移動を巡る論議を通して、私達の教会の使命はどんな特徴を持っているのだろうかと自問しています。どちらももらい物で気軽に置いたもの。それに疑問を持ちつつ主任司祭の決断に従ってきたのは私達の責任だ。今こそ再考する時。

私達が良く知っている聖母の祝いで、グワダルッペの聖母、ルルドの聖母がある。グワダルッペの聖母は、メキシコの貧しいインディオに出現し、ルルドの聖母は、病身な貧しい村娘に出現しました。それだけでなく聖母は世界のあちこちに出現して、全人類の癒しの為、救いの為、神の栄光を賛美する為に聖堂を建てるよう求めます。聖母の出現は各国で特徴があり、それぞれの環境で苦しむ人々の必要に応えるために、小さな人を選んで使命が託されています。

私達の教会の特徴は、「原爆犠牲者の慰靈追悼と世界平和と友情のシンボル」として建設された事は皆様もご存知の通りです。

聖堂の特徴をいくつかみてみると、まず一つは、正面に「再臨のキリスト」の壁画があることです。私達は、終末の時、栄光を帯びて再び来られるキリストに招かれて、神の国の完成の時まで働き続ける復活のキリストの協力者として、神の国の完成の時が早く来るよう、私達が受けた福音を述べ伝え、キリストの口となり手足となって隣人愛を実践するよう派遣されます。それはここで祈る人々に特別な使命が託される



ことを意味し、「再臨のキリスト」が全世界に伝えられるよう私達は願っています。

もう一つの特徴は、平和を祈り続ける場として地下聖堂があること。建堂当時は、平和のための24時間礼拝が行われていました。その精神をどのように生きるか、私達信仰共同体の課題です。今はここで国際色豊かなミサや、祈りの集いで世界平和のために祈りが捧げられています。フィリピン人やブラジル人や韓国人やペルー人など各国の信仰表現が自由に出来、平和のために祈る場になれば素晴らしいでしょう。

さらにもう一つ、聖体が安置された聖櫃のある小聖堂（聖母祭壇）があります。この聖櫃の上部に被昇天の聖母のモザイクの壁画が置かれています。被昇天の聖母のモザイクはここにしか見られないもので、栄光を帯びた聖母がいつも私達の必要をキリストに取り次いでくださっています。世界平和記念聖堂のためにデザインされた聖母こそが、この教会の保護聖人です。ルルドやグワダルッペのように大きなものでなくても、世界に二つとないモザイクの被昇天の聖母像を私達の教会にいただいている。

こうしてみると、私達は、再臨のキリストと栄光に輝く被昇天の聖母に招かれて、神の国の実現のために、平和の使徒としての使命を果たせるよう真剣な祈りと協働が求められています。聖母に取り次ぎを願い、再臨のキリストを迎える日を夢見てキリストと協働する私達に託された使命を生きたいのですね。そして訪れる人々にも、この使命を分かち合う事が出来ますように！

飛び込みインタビュー



司教区事務局長

ノートルダム清心
女子大学客員教授
聖書神学博士

はらだ とよき

原田 豊己

靈名・受洗年 フランシスコ・ザビエル

幼児洗礼

生い立ち、家庭環境

1953年岩国市に生まれました。家の離れを岩国教会に貸していたことがきっかけで、家族で信者となりました。イエズス会の神父様から国際情報を得るのが樂しみでした。

司祭を目指すきっかけとその時期

ベトナム戦争・沖縄返還などの世の中の動きを知ることができ、人のためにもなると思い、高校生のときに一度、神学校を目指しました。高校最後の冬は父が赴任していたアメリカで海外生活を経験。帰国後に神学校の選考から外れた事を知り、急ぎよ東京の大学に進学。海外協力隊に将来参加しようとの志から、農学部を専攻しました。学生時代は学生センターの活動を主にして、大学卒業と同時に再度チャレンジし、神学校に入り、28歳で叙階しました。

「生きがい」を感じるとき

人と接している時に「私とあなた」だけではなく、神様がいらっしゃると感じる場があり、深い交わりがあることに恵まれています。その人の助けとなり、苦しみや喜びを共に感じることができることに生きが

いを感じます。これから先も、それを味わうことが樂しみです。すべて神様を中心に関わる、人とのつながりです。

どんな司祭を理想とされますか？

司祭として難民キャンプなど困っている人々のお役に立てるときです。湾岸戦争の際に自衛隊に代わって民間チャーター機を飛ばして、避難民を援助する活動に参加し、高校の時の夢であった海外援助の夢が実現しました。岡山教会時代も AMDA(岡山に本部がある国際的医療 NGO)とルワンダ難民の救援グループを立上げ、その代表として現地で活動しました。現在は東チモールの援助を一粒会を通じて行っています

将来への思いは

少子化で司祭になり手が少なくなるのは「時の証し」。それでも、宣教のために働く司祭が誕生することを願っています。司教区では海外へ宣教する機会がないため、早めに引退し、宣教師として働きたいです。湾岸戦争やルワンダに行った時の経験から、海外で本当に困っている人のいる現場で役に立ちたいと思います。現在は東チモールにあこがれています。

他の小教区との違い。幟町の共同体に期待すること

広島司教区は、他の司教区と比較しても祈りやミサの参加、社会に対する活動や教会経済など、しっかりしています。しかし、組織としてスムーズに動いていない部分も見受けられます。世界平和記念聖堂・国の重要文化財司教座聖堂としての自覚を持ってほしい。少人数でもミサ後に聖書・典礼・神学・靈性・教会の歴史・教会運営などの勉強会を行ってください。



「ぶどうの会」運営委員 シスター荒谷明恵
(ナミュール・ノートルダム修道女会)

「ぶどうの木につながるために」

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。(ヨハネ15.5)」

昨年のご復活に、信仰と愛の源である神さまの新しいのちに生きる恵みをいただかれた受洗者の皆さんのが、新しい人生を踏み出してから9か月が経ちました。この短い期間に皆さんの熱意と行動力の成果は目を見張るものがあります。ぶどうの木にしつかり繋がり成長し、教会の一員としての自覚と自信を持って各方面で活動しておられる姿は教会全体に大きな希望の活力を与えていくように思います。

聖歌隊や教会の委員会で活動されたり、夜回りの会やミサの朗読、バザー、教会の清掃などの奉仕のとき、若い力を發揮してとてもよく活躍をしておられることはとても頼もしく、力強さを感じます。

教会の素晴らしい点は、奇特な先輩の方々が黙々と奉仕をしていらっしゃることでしょう。聖堂の入口で明るい挨拶で迎え入れてくださる方、聖歌集の整理をしてくださる方、灯油を入れたり、お掃除をしてくださっている方、至る所でいたわりの手が伸べられていることに気づきます。このように教会を大切に思い、奉仕と協力一致の精神が生き生きと循環し代々引き継がれてきています。これからも、皆で一致協力し、キリストの体である教会を通して主イエズス・キリストとの繋がりを強めながら日々を誠実に生き、永遠に栄光に与ることができるように努力をいたしましょう。

「豊かな実を結ぶために」

2002年に長い期間の準備の後、教区大会が盛大に開催されました。「沖に漕ぎ出せ」をテーマに21世紀の教会のあり方、教会の問題が熱心に話し合われ、受洗後のアフターケアについても真剣に話し合われました。

また2006年に宣教司牧に関する司教宣言「平和の使徒となろう」が公示され、広島教区活動の基本方針、「平和 きょうどう養成」の三本柱が表明されています。

従来の信者の養成に加えて、昨年4月のご復活祭に受洗された方々をはじめ、過去3年の受洗者を中心にフォローアップを実施する計画が6月末に実現しました。代父母の方々の協同参加もあって、次第に養成の共同体が確立してゆきました。2か月ぐらい経った頃、司会者のリードで、新信者の方がどのように信仰を深めておられるか分かち合いがありました。日常生活の中で聖書を読み、何らかの方法でご自分の信仰を深める努力しておられることを伺って参加者は皆啓蒙されました。

神の子として生まれた方々の燃えている心の灯が消えないように、いつまでも瑞々しい信仰を大切にしてゆかれることを願って、このぶどうの会が始まりました。代父母、その他多くの信徒の皆さんへの支援により速やかに軌道に乗りました。これはまさしく、神さまのお望みであり、豊かな聖靈の導きであることを共に感謝しています。そして皆さんから、信仰の豊かさを分かち合っていただき、受け継ぎ、次の代の人々に伝えてゆくことが目的です。一本のぶどうの木から枝が伸び、多くの房が付いています。今年のご復活には、また新しいぶどうの房が実ることでしょう。

先日、柳田神父様がぶどうの会に顔を出してくださいました。幸いにもこれからも毎月2回加わってくださることになり、ぶどうの会にとって大いなる活力をいただけることでしょう。どうぞお気軽にご参加くださいませ。

幟町教会の各係・委員会の紹介 第1回 運営委員会

「運営委員会」は、幟町教会の運営に必要な事項を審議し決定する組織で、メンバーは後藤神父、アルベルト神父、シスター小野島の他、各地区会（東・西・南・北ブロック）から各2名ずつの代表と各世代組織（マリア会・壮年会・青年会）と専門部組織（典礼部・宣教企画部・教会学校・財務部・社会部・施設管理部）及び広島フィリピン人協会から各1名ずつの代表ならびに司祭推薦の1名の22名です（うち1名欠員）。毎月第3日曜日に開催して、より活き活きとした幟町教会を目指して白熱した議論を行っています。会議の内容は「平和の鐘」にも掲載されます。

運営委員会への質問やご意見、要望などがあれば、各委員にお問い合わせください。

ぶどうの会（3年未満の受洗者と代父



母の会 全体会のお知らせ

もうすぐ四旬節を迎えます。今一度、受洗の時の気持ちを思い起こし、自らの信仰を見直して、新たな気持ちで復活祭を迎えるといいます。3年未満の受洗者と代父母のみなさん、ぜひお集まり下さい。

日時：3月14日(日) 9:30 ミサ後

場所：多目的ホール

ぶどうの会 HPができました！



<http://noboribudou.blog.so-net.ne.jp/>

幟町教会のHPからリンクで！

編集後記



「悼む人」「静人日記」(天童荒太著)は、主人公が、亡くなった方が誰を愛し、誰に愛され、感謝されていたのかを訪ね歩く旅をする話。亡くなられた方がどんな人であれ等しく悼む姿は、私たちが神に求める「憐れむ」という行為に似ていると思う。考えさせられるという堅い本ではなく、死をテーマにしながら生を感じる不思議な感覚が残る本です。(ひ)